

の多くが工場労働者であった。震災直後には東京・横浜からの避難者が火災を免れた橘樹郡の各町村に流入した。避難者の中には家を建てて住みつくる者もあり、約二週間のうちに市内の人口は一万人も急増したという。被害を受けた工場の再建は資金力を有する企業が急ピッチで進めたが、町を復旧させ、町民の暮らしを向上させるのは小規模な町役場には到底できることではなかった。ここで出てきたのが、川崎町と御幸村の合併話で、そこに大師町が相乗りする形で合併が急速に進められたという。

水道の話もこれと関連している。川崎町の人々は江戸時代から二ヶ領用水を農業用水としてだけでなく、飲料水としても利用してきた。掘割からの水を直接利用する地域もあったが、桶でろ過した飲料水を売る「水屋」という商売もあった。明治40年代の工場誘致が成功したことで、川崎には多くの工場労働者が流入し、一気に人口が増加した一方で、工場からの排水処理が間に合わず、二ヶ領用水の汚染が進んだ。当時の調査では川崎町の水の多くが飲用に適さず、コレラ・赤痢・腸チフス等の伝染病が流行するなど衛生上の問題も発生し、川崎町に住むことが敬遠される傾向があったという。きれいな水への期待が増す中、1910(明治43)年に最初の水道計画が立てられたが、

町の財政状況などから県の認可が下りず、川崎町は断念した。この深刻な水不足に対して危機感を覚えた石井泰助は、安定して飲料水を得るための上水道の整備を目指し、1916(大正5)年に町長を辞職し、自ら水道委員長として上水道の敷設を推進する。上水道の水源は中原村宮内に取り、御幸村戸手に浄水場を設ける計画を推進した結果、1919(大正8)年に敷設計画の認可が下り、1921(大正10)年についに浄水場が完成し、飲料水の供給が始まった。

念願の上水道完成は近隣地域へのインパクトも非常に大きく、川崎町と同様に上水道の整備が急がれていた大師町、御幸村からも水の供給を求められ、川崎町水道からの上水の供給を条件に三町村は合併した。以降、同様の理由から3年後に田島町、9年後に中原町と次々合併し、最終的には1939(昭和14)年に柿生・岡上村の合併を持って、現在の川崎市域が出来上がった。合併の背景には、唯一川崎町だけが有していた上水道の存在があったのだ。なお、田島町は川崎町との合併を望む住民側と時期尚早とする町議会側が対立し、一時は全町が騒然となる一幕もあったようだが、町議会が提案した鶴見町潮田との合併案を鶴見町側から拒否され、最終的に川崎市との合併に踏み切った経過があるという。

コラム 100年前の川崎市と比較しよう

川崎市は100年間で大きな変化を遂げた。100年前と現在の市の基礎的な数値を比較して、変化の大きさを感じてみよう。

<p>▶面積</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>1924年</p> <p>22.23km²</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>6.5倍</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>144.25km²</p> <p>2023年</p> </div> </div>	<p>▶人口</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>1924年</p> <p>50,188人</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>30.7倍</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>1,541,640人</p> <p>2023年</p> </div> </div>
<p>▶工場生産額(製造品出荷額等)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>1924年</p> <p>4,166万円</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>81,610倍</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>3兆3998億7300万円</p> <p>2023年</p> </div> </div>	<p>▶川崎駅乗降客数(1日あたり)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>1924年</p> <p>7,539人</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>28.3倍</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>213,180人</p> <p>2023年</p> </div> </div>

市の面積は市制施行以降、北に向かって市域を拡大し、約6.5倍に拡大した。人口は市域の拡大に加え、経済発展、鉄道沿線を中心とした開発、工場跡地の住宅建設などにより、30倍以上に増加した。工場における生産額(製造品出荷額等)は工場数の増加、設備の拡張、経済成長などにより、実に81,610倍となった。また、川崎駅の1日当たりの乗降客数は28.3倍に増加し、駅前の飛躍的な発展を裏付ける数字となった。